

2021年度メディア・コミュニケーション研究所公開講座

# ジャーナリズムの「危機」と その再生に向けて

山腰修三（慶應義塾大学）

# 1 はじめに

- メディアコムへの入所（1998年）、教員としての「帰還」（2010年）、そして現在

- ・この数年の急激な変化

- ジャーナリズムの現代的「危機」とは何か？

→「ニュース文化」を手がかりに検討

→それを踏まえて、研究所の研究生が今日、ジャーナリズムの世界を目指す「意義」を考える。

## 2 ジャーナリズムの「危機」とは何か

- いかなる「危機」なのか？
- ジャーナリズムの「危機」の諸相
  - ・ 経営上の「危機」 (中馬 2003)
  - ・ 信頼性の「危機」 (林 2017)
  - ・ フェイクニュース、ポスト真実... 「ニュース」の「危機」

→キーワードとしての「ニュース文化」

# 3 ニュース文化とは何か

## ■ 定義

「解釈共同体としてのジャーナリズムのエートスを形成する共有された規範、価値、信念、期待、慣習、戦略、象徴体系、儀礼」 (Zelizer and Allan 2010: 86)

・ ニュースの制作をめぐる日常的な実践—取材、編集、他紙や他局も含めたニュースの参照、同僚との会話や共同作業、所属する組織や業界に関する知識など—を通じて、ジャーナリストとしてのアイデンティティだけでなく、「ニュースとは何か」「ジャーナリズムとは何か」といった認識枠組みが共有されていることを説明する概念

- ・ 一般のメディア・オーディエンスやメディア・ユーザーによる関与の増大
- ・ 20世紀に偶発的に確立したレジームとしてのニュース文化 (鶴見 1965)

# 4 ジャーナリズムの正当性の「危機」

## ■ トランプ現象

- ・ フェイクニュースとポスト真実
- ・ 偽情報の秩序 (Bennett and Livingston 2018)
- ・ 伝統的ニュースメディアを「フェイク」と攻撃するポピュリズム戦略

→ 主流ニュースメディアのニュース文化の否定 / 偽情報の生産・流通・消費をめぐるオルタナティブな (フェイク) ニュース文化の構築

→ 日本の場合は？

## 4 ジャーナリズムの正当性の「危機」

### ■ 日本におけるニュース文化の変容とその帰結

#### 1) 「ニュース」「ニュースメディア」に対する批判、攻撃

- ・「選択」「編集」は「切り取り」「偏向」か？

→「選択」「編集」という従来のジャーナリズム実践の正当性の揺らぎ

#### 2) 「ニュース」と「ニュースではないもの」の境界線の揺らぎ

- ・「ニュース的なもの」の増殖？

- ・ワイドショー、ネット上の「読みもの」、ツイート、キュレーション、ポータルサイト

→ニュース文化の専門性の揺らぎ

## 4 ジャーナリズムの正当性の「危機」

### ■ 日本におけるニュース文化の変容とその帰結

#### 3) 「批判」に対する忌避感の高まり

- ・「野党嫌い」の政治文化
- ・説明責任、応答責任の形骸化

→ニュース文化の「危機」と民主主義的文化の「危機」との結びつき

#### 4) 市場原理主義の優位

- ・新自由主義の論理によるニュース文化の「植民地化」
- ・ポストデモクラシー状況との連動

(クラウチ 2007、シュトレーク 2016、ブラウン 2017、Farkas and Schou 2020)

→ニュースの「公共的価値」の低下

# 5 ジャーナリズムの正当性の回復に向けて

## ■ ジャーナリズムの「危機」への処方箋

- ・ファクトチェック
- ・プラットフォームへの規制
- ・メディアリテラシー

→あくまで対処療法に過ぎない？

## ■ より深い戦略の必要性

- ・ニュース文化の再構成

# 5 ジャーナリズムの正当性の回復に向けて

## ■ 社会全体で取り組むべき二つの長期的課題

(1) ニュース文化に多くのアクターが関わるようになっている事実を適切に認識すること

- ・「コモンズ」としてのニュース文化

(2) ニュース文化の「公共性」を高めること

- ・ポストデモクラシー状況を乗りこえ、公共性の復権を目指す幅広いプロジェクトの一環にニュース文化の再構成を位置づける

# 5 ジャーナリズムの正当性の回復に向けて

## ■ ニュース文化の再構成のためにジャーナリズムが取り得る三つの戦略

### (1) 「良いジャーナリズム」の社会的共有

- ・ ジャーナリズムを評価する語彙や論理、基準
- ・ なぜそれが「良い」のかを説明すること

→ 「ジャーナリズム」の価値を高める

# 5 ジャーナリズムの正当性の回復に向けて

## ■ ニュース文化の再構成のためにジャーナリズムが取り得る三つの戦略

### (2) ニュース制作の新たな協働

- ・ 現在ニュース組織間で広がりつつある協働をより幅広く、外部の人々や組織との連携へと拡張させること
  - ・ 従来の組織や業界の枠組みを超えた新たなジャーナリズムの追求
- 「ニュース」の価値を高める

# 5 ジャーナリズムの正当性の回復に向けて

## ■ ニュース文化の再構成のためにジャーナリズムが取り得る三つの戦略

### (3) 民主主義的コミュニケーションの模範の提示

・ニュース文化における「批判」「対話」「説明すること」「他者の声を聴くこと」の価値を高めていくことは民主主義文化の深化に繋がる。それが社会全体の公共性を回復させ、結果的にニュース文化の正当性を回復させることになる。

→「民主主義」の価値を高める

## 6 おわりに

- ジャーナリズムの世界を目指す今日的意義
  - ・ 1世紀ぶりのニュース文化の大転換、その再構成に関わること
  - ・ 多様なアクターと協働しながら作り上げる新たなニュース文化
  - ・ 「公共性」再生のプロジェクト
  - ・ メディアコム研究生のポテンシャル

# 引用・参考文献

- クラウチ, C. (2007) 『ポスト・デモクラシー: 格差拡大の政策を生む政治構造』 山口二郎監修・近藤隆文訳、青灯社。
- シュトレーク, W. (2016) 『時間かせぎの資本主義: いつまで危機を先送りできるか』 鈴木直訳、みすず書房。
- 中馬清福 (2003) 『新聞は生き残れるか』 岩波新書。
- 鶴見俊輔 (1965) 「ジャーナリズムの思想」 鶴見俊輔編 『現代日本思想体系12 ジャーナリズムの思想』 筑摩書店: 7-46。
- 林香里 (2017) 『メディア不信』 岩波新書。
- ブラウン, W. (2017) 『いかにして民主主義は失われていくのか: 新自由主義の見えざる攻撃』 中井亜佐子訳、みすず書房。
- Bennett, W. L. and Livingston, S. (2018) “The Disinformation Order: Disruptive Communication and the Decline of Democratic Institutions,” *European Journal of Communication*, Vol. 33(2): 122-139.
- Farkas, J. and Schou, J. (2020) *Post-Truth, Fake News and Democracy: Mapping the Politics of Falsehood*, Routledge.
- Zelizer, Barbie and Allan, Stuart (2010) *Keywords in News and Journalism Studies*, Open University Press.